

学習内容報告書 フォーマット

学校名	丸亀市立城東小学校
授業者	5年：藤岡敬済 松本麻美 山本健太郎

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

世界とつながる海を守るために自分にできることを実践しよう

1-2. 学年

5年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、社会科

1-4. 単元の概要

1. 四国水族館、塩田の見学〈2h〉

- ・海や川の生き物の泳ぐ姿を見たり、触ったりできる体験学習を通じて、海に住む生物やその環境に興味をもつ。
- ・「久米栄左衛門」の学習から香川県が塩づくりで栄えていたことを想起させた上で、宇多津で塩づくりが盛んになったわけ、塩の流通等、香川を含む瀬戸内海の特徴を学ぶ。

2. 校外学習（金刀比羅宮、琴平海洋博物館）〈2h〉

- ・海から離れた山中にあるにも関わらず、なぜ海の神さまなのかということについて学ぶ。
- ・「琴平海洋博物館」の見学をすることで、海や船・海事に興味・関心をもつ。

3. 国際交流員（秋月シンシアさん）来校〈2h〉

- ・カナダのSDGs海の保護についての取り組みを参考に、日本での取り組みや世界の取り組みについて調べ、まとめていく。

4. 「かがわ里海大学」講師来校〈3h〉

- ・学校のすぐ横を流れる土器川のごみを拾い、どんな種類のごみがあるのか観察し、どこから来てどこへ向かうのかを考える。川と海のつながりに改めて気付く。
- ・海ごみの影響を受けた生き物の様子を見たり、体験したりすることで、海を守るために自分たちにはどんなことができるか考える。

5. ポスター作り〈3h〉

- ・海について学んだことをもとに、自分たちが海を守るために何ができるのか考えたことをポスターにして全校生に知らせる。

※予定していた「瀬戸内海区水産研究所への見学」「集団宿泊学習でのいかだ作り」「今治造船所への見学」は、新型コロナウイルスの影響で中止になった。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

学校の東には土器川が流れ、児童は3年では「土器川クリーン作戦」を行ったり、4年ではゲストティーチャーを招いて土器川の生物について話を聞いたりした。また、社会科の授業で水の循環や郷土の発展に尽くした人々（「久米栄左衛門」「野網和三郎」など）を学習し、水に対する関心を高めていると思われる。しかし、海への関心は低く、海の恩恵や知識はまだ薄い。そこで、さまざまな体験を通して、海に関心をもたせ、自分の住む地域に誇りをもたせたいと考えた。また、豊かな海を継承するためにも、海を守るために自分たちに何ができるのかを考え、共生していこうとする人材を育成したい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の現状や課題、保全する取り組みについて理解する。 ・川と海とのつながりを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海を守るために自分たちに何ができるか考える。 ・必要な情報を収集し、判断したり伝えたりする。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力して、学びを深めようとする。 ・様々な体験学習を通して、今まで以上に海を身近なものとして感じようとする。

1-7. 単元の展開（全18時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	○海と香川県の関わりを知ろう。 ・四国水族館、宇多津の塩田の見学 ・金刀比羅宮、海洋博物館の見学	※見学場所について事前調べを行う。
1	○海ってどんなところだろう ・今までの学習や生活経験を基に、海とはどんなところなのかイメージマップを用いて知識を共有する。	※本時で使用したイメージマップは、単元末のまとめの時間にもう一度ふりかえり、書き足せるよう残しておく。
1	○水の汚れって？ ・水槽の中に様々な物を溶かしたり浮かべたりすることで、水の汚れに対して具体的なイメージをもつ。	【使用教材】 ・ビーカー、水槽 ・アルミ缶、木の枝、洗剤、プラスチック、紙、油、 飴の袋、ペットボトルのキャップ
2	○カナダってどんな国だろう ・カナダの文化や習慣について話を聞き、日本とは異なる文化に興味をもつ。 ・海外（カナダ）では海を守るためにどんな活動をしているのか話を聞くことで、日本だけでなく世界でSDGs 14に取り組んでいることに気付く。	【外部連携】 国際交流員 秋月シンシアさん

4	<p>○海の汚れはこの先どうなるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時「水の汚れって？」の活動からの続きで、ジグソー活動によって、海の汚れについてグループごとに調べ、伝え合う。 	<p>※前時の予想（汚れはこの先どうなるのだろう）を基に教師が資料を作成し、その資料を用いて内容をまとめられるよう指導する。</p> <p>〈流れ着くごみ〉〈清掃方法〉 〈マイクロプラスチック〉〈分解〉</p> <p>【評・学・人】</p> <p>友だちと話し合ったり、発表を聞いたりして、これから探究していこうとする課題について考えている。（ワークシート）</p>
3	<p>○土器川と海のつながりを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器川のごみ拾いを行い、どんな種類のごみが多いか調べる。 ・海の汚れと生き物の関係、瀬戸内海や世界の海について等の話を聞く。 	<p>【外部連携】</p> <p>かがわ里海大学 森田先生 谷先生</p>
3	<p>○海を守るために自分たちにできることを伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことをもとに、自分たちが海を守るために何ができるのか考えたことをポスターにして全校生に知らせる。 	<p>※ポスターのイラストと文章を書く際、どの学年が見ても分かるような表現や字の大きさを意識するよう指導する。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・「水の汚れ」に対して具体的な様子を捉える。
- ・汚れがこの先どうなるのかを予想させることで、次時の探究活動への意識を高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 「水の汚れ」と聞いて、どんなものが思い浮かぶか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみが浮いている。 ・社会で勉強した赤潮とかも汚れかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊟水の汚れってどんなものだろう</p> </div> <p>2. グループで相談して、実験の予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙は水にとけてなくなると思う。 ・アルミ缶は中に水が入ると重くなるから沈むと思うな。 ・洗剤は泡立ちそう。 <p>3. 実験をして、結果を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油って水の中でこんな風になるんだ。 ・全部混ぜられた水って汚いな。 <p>4. 汚れがこの先どうなるか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこかに流れ着くと思う。 ・だれかが掃除しているんじゃないかな。 ・生き物が食べている。 ・いつかなくなると思うな。 <p>5. ふりかえりをする。</p>	<p>2・日常生活を振り返りながら予想できるよう声をかける。</p> <p>㊟「水の中での状態」に文章で説明しにくい児童のために、予想をたてる前に全体で「浮く」「しずむ」「とける」等の言葉の表現があることを共有しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想の段階で、なぜその予想をしたのか理由まで書かせることで、グループで根拠をもって話し合えるようにする。 <p>3・それぞれの物を入れた水を全部混ぜることで、一つ一つの汚れは大したことないが、全部混ぜると想像以上に汚いことを実感させる。</p> <p>4・児童の予想を発表させることで、これから探究していこうとする内容を共有し、次時への意識を高める。</p> <p>【評・学・人】 友だちと話し合ったり、発表を聞いたりして、これから探究していこうとする課題について考えている。 （ワークシート）</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・単元を通して興味関心をもち、意欲的に活動に取り組めた。
- ・単元末のふりかえりでは、登下校中に落ちているごみ等が風でとび、川に流され、瀬戸内から世界中の海へ、そして生き物や環境に影響を与えてしまうかも…という内容を書く児童が大勢いた。学習を通して、今まで以上に川と海のつながりについての理解を深めることができたと思われる。
- ・世界中の海の課題は自分たちの課題でもあることに気づき、身近なことでできることを考え、実践することができた。

4. 今後の課題

- ・教員の知識不足
→単元構成や授業を考える上で、教員側が初めての内容の扱いということもあり、情報を集めたり、資料を選択したりすることが難しく、引き出しの少なさが悔やまれた。
- ・単元の構成（外部との連携や学校行事の時期との兼ね合い）
→単元の始めに「【外部連携】かがわ里海大学」の講座を設定し、土器川のごみ拾いや種類調べをすることで、3・4年生での経験からのつながりをより意識させて内容を広げていくことができたのではないかと思われる。
- ・情報活用力の向上
→調べた内容をそのまま書き写すだけの児童もいた。集めた情報を考えなおしたり、さらに調べたりできる時間を確保し、思考力を高めていけるような指導の必要性を感じた。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。